

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 170

2003年

1~2月号

明けましておめでとうございます。

平成14年も会員の皆さんの活躍で、月例探鳥会等の予定年間行事のほか受託鳥類調査、小・中学校の授業協力、千葉県環境財団からの鳥の観察指導など沢山の事業を無事に終了することができました。特に昨年は我孫子野鳥を守る会発足30周年にあたり記念行事が行われました。山階鳥類研究所の山岸 哲新所長を迎えての記念講演会や我孫子野鳥を守る会創設以来、当会の発展に貢献、援助して下さった方々に感謝するパーティーが盛大に催されました。加えて30周年記念事業として「手賀沼の鳥」パートIIの編集が進められています。11月16・17日に開催された「ジャパン バード フェスティバル2002」は年々参加団体が増え、内容も豊富になってきました。当会が参加した展示・研究発表の部門では「オオバン賞」を受賞することができ、記念すべき30周年の有終の美を飾りました。また私たちの大切なフィールドである手賀沼が27年の永きにわたる水質全国ワースト1の看板を降ろすことが決定したことも慶事といえるでしょう。ちなみに2003年は「国際淡水年」で日本で国際会議が開かれます。

さて、平成15年を迎え、今年も野鳥とのふれあいを楽しみながら私たちに出来る範囲で社会への貢献も続けていきたいと思えます。

大変お世話になった前山階鳥類研究所所長黒田長久博士の鳥との関わりの言葉に「愛(友情)・知(理性)・和(絆)」があります。鳥にたいする知識、愛情から発展した、「和」・楽しみながらも保護・共存が大切な時代です。私たちも知識の充実はかり鳥を愛する人との交流を広めながらさらに、人を含めた生物にとってのより良い環境の保全・復元を目指しましょう。

我孫子野鳥を守る会30年の経験、知識、技術を生かしたいとおもいます。「手賀沼の鳥」の上梓や我孫子市の「岡発戸・都部谷津ミュージアム構想」への協力は「和」へ通じる一歩になるでしょう。

皆様にとって健康で沢山の野鳥との出会いがある1年になることをお祈りします。

我孫子野鳥を守る会 会長 木村 稔

◇行事予定

手賀沼探鳥会とカウント

期日 1月12日(日) 雨天中止
集合 我孫子市役所前 午前9時
案内 今年最初の定例探鳥会です。ミコアイサなどカモ類が集まり、一番多く見られる時期です。田圃のタゲリやワシ・タカも期待しましょう。

(正午頃解散)

担当 向井、大久保、中野

幹事会

事務局

日時 1月12日(日) 午後1時30分
集合 水の館研修室(3F)
議題 14年度外部行事協力費について
15年度上期行事予定
その他

公民館学級市民カレッジ雑学コース

(後期)のお手伝い

日時 1月25日 9:30~12:00
集合 アピスタ 玄関前午前9時20分
案内 市民カレッジ雑学コース(7回シリーズ)のうち、バードウォッチングの指導依頼がありました。対象は18~65才の応募者21名です。当日は始めに会議室で20分ほど講話をした後、遊歩道をBWしながら歩く予定です。午前中に終了します。

お手伝いいただける方は次へご連絡下さい。

連絡 Tel/Fax 04-7187-2222 島崎純造

担当 木村、首藤祐、島崎

市民手賀沼探鳥会

(手賀沼の鳥にネイチャーイン)

期日 1月26日(日) 雨天中止
集合 我孫子市役所正面玄関前 午前9時
案内 市民のための手賀沼の冬鳥ウォッチング
内容 市の環境レンジャーによる市民のための探鳥会です。市民の方に手賀沼の水鳥や冬の小鳥達をウォッチングしてもらいます。

市のマイクロバスに乗って、沼南町側より上沼、下沼の数ポイントをウォッチングします。大勢の市民の方の参加が予定されますので、当日のお手伝いをお願いします。お手伝いは多ければ多いほど良いと思います。

担当 染谷迪夫、我孫子市環境レンジャー
連絡先 Tel&Fax 7182-3972

手賀沼探鳥会とカウント

期日 2月9日(日) 雨天中止
集合 我孫子市役所前 午前9時
案内 カモ類がカップルをつくり始める時期です。綺麗になったオス達の求愛ディスプレイがあちこちで見られます。種類のよる違い見てみましょう。

(正午頃解散)

担当 向井、大久保、中野

冬の軽井沢探鳥会

久々の軽井沢探鳥会です。途中、東電佐久調整池に立ち寄りませう。軽井沢ではレンジャクや赤い鳥を求めて周囲を探索します。また時間が許せばケアシノスリを探しに行きませう。

期日 2月22日(土)~23日(日)
集合 我孫子駅南口ロータリー前。午前8時
交通 今井観光バス 25人乗り
宿泊 中軽井沢ペンション「ココット」
ダイニングルームから野鳥観察が可能。すぐ近くに温泉浴場ができました。

費用 約25,000円/人

当日、集合時に徴収します。

申込み 1月5日以降、申込みを受け付けます。定員23名先着順。補助席なし。

申込先 首藤佑吉

〒270-1143 我孫子市天王台3-7-2-106
電話・FAX: 04-7183-0863

担当 島崎、首藤

○手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2002年10月13日(日)晴 気温 23℃
実施時間 9:15~12:00

<カウント班>飯泉 仁・久美子
<探鳥班>佐柄孝二・香代子、梅村康之、榎本右、井上 正、中野久夫、飯島 博、諏訪哲夫、小林寿美子、村瀬和則、常盤孝義、谷沢幸次、田村和平、米田崇明・洋斗、西巻 実、田中 功・やす子、北原建郎、宮下三禮、染谷迪夫、黒田力、川田光男、谷山晴男、佐々木 隆、志賀鉄雄、島崎純造、畑 幸正、大野真澄、田中 斉、小川克子、赤尾 完、遠藤織太郎、野口紀子・紀恵、コ小林秀美、清岡万紀子、立川節子、田丸喜昭、向井章雄、高橋敏彦、木村 稔、
以上 42名

鳥 種	上沼	下沼	計
カイツブリ	5	6	11
カワウ	26	125	151
ゴイサギ		1	1
ダイサギ	6	3	9
コサギ	14	18	32
アオサギ	10	6	16
コブハクチョウ	2	12	14
マガモ		1	1
カルガモ	43	3	46
コガモ	16	37	53
ヒドリガモ		6	6
オナガガモ		6	6
ハシビロガモ	1		1
ホシハジロ		1	1
キンクロハジロ		3	3
スズガモ		1	1
バン	1		1
オオバン	1	7	8
ユリカモメ	34		34
セグロカモメ	1		1
アジサシ		3	3
コアジサシ	1	1	2
合計 22種	161	240	401

その他<認めた鳥>オカヨシガモ、ミサゴ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、キジバト、★カワセミ、コガラ、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、★オナガ、★カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、計 24種

合計 46種 ★はカウント班のみ
外来種 カワラバト、

○手賀沼クリーン作戦

10月13日(日)PM1:30~3:00 梅村康之
私たちが毎月探鳥している手賀沼の沼南町側のポイントでの清掃です。毎年この時期に実施していますが、ここ数年ゴミが少なくなってきました。市民のモラルが向上してきたのでしょうか。嬉しいことです。約1時間30分程で終了し、島崎純造事務局長のご配慮で冷たいジュースを飲みながら今年も無事終了しました。

<参加者>向井章雄、北原建郎、梅村康之、西巻実、井上 正、谷山晴男、赤尾 完、諏訪哲夫、佐々木 隆、宮下三禮、飯島 博、米田崇明・洋斗、飯泉 仁・久美子、染谷迪夫、島崎純造、黒田力、田丸喜昭、小川克子、立川節子、田村和平、小林寿美子、中山敬一、木村 稔、小林秀美、清岡万紀子、村瀬和則、中野久夫、野口紀子・紀恵、田中 功・やす子、渡辺泰輔、以上 34名

○手賀沼のカウント

調査日時 2002年11月10日(日)晴 気温 12℃
実施時間 9:15~12:00

<カウント班>飯泉 仁・久美子
<探鳥班>北原建郎、佐々木 隆、品田 清、宮下三禮、山村和子、遠藤織太郎、清水もとい、向井章雄、島崎純造、間野古幸、野口幸子、計良洋之・初枝、田中 斉、玉井修一郎、川田光男、西巻 実、中野久夫、上村ミイ、田丸喜昭・メリールズ、川上 實、平林安江、武藤和子、梅村康之、染谷迪夫、勝田 清、武藤康之、田中 功、坂巻宗男、柴本三弘、山本浩二、笠 千恵子、小林寿美子、立川節子、中山千賀子、常盤孝義、久能静子、野口紀子・紀恵、小林秀美、谷沢幸次、木村 稔、堀江田鶴子、猪爪敏夫、畑 幸正、松本庸夫、小玉文夫、伊藤貴子、以上 49名

鳥 種	上沼	下沼	計
カイツブリ	1	11	12
ハジロカイツブリ		17	17
カンムリカイツブリ		6	6
カワウ	42	193	235
ダイサギ	4	5	9
コサギ	5	10	15
アオサギ	15	5	20
コブハクチョウ	1	8	9
マガモ		6	6
カルガモ	59	14	73
コガモ		47	47
オカヨシガモ	14		14
オナガガモ		73	73

ハシビロガモ		5	5
キンクロハジロ		2	2
ミコアイサ		1	1
バン	1		1
オオバン	14	23	37
タゲリ		20	20
ユリカモメ	24	58	82
セグロカモメ	1	3	4
合計 21種	181	507	688

その他<認められた鳥>ミサゴ、★トビ、オオタカ、チョウゲンボウ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、★キセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、★ツグミ、★ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、★カシラダカ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、★オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

以上 計 29種 合計 51種 ★はカウント班のみ 外来種カワラバト、カナダガン 3

○ JBF パードフェスティバル 定点観察

2002/11/18 染谷迪夫

JBF パードフェスティバルも回を重ねて、盛大になって来ました。我孫子野鳥を守る会もいろいろなイベントに参加しています。展示コーナーや湖上パードウォッチング、水の館前の定点観察等です。今年はオオバン賞も頂いて、特に充実したイベント参加になったと思います。これも会員各位の日頃の活動の成果ではないでしょうか。

11/16,11/17 の両日とも曇りがちの寒い日では有りましたが、噴水まへの展望広場に10台位の望遠鏡を据えて、定点観察を行いました。一般のJBF参加者に手賀沼の水鳥を見てもらう為です。16日は、水鳥に加えてオオタカが出てくれました。また17日には、17年ぶりのカワアイサ5羽が観察されました。観察された種類は、16日は26種、17日は34種とたいへんよく鳥が出てくれました。観察された一般の方は、子供から年配者まで幅広く、望遠鏡で鳥を間近に見て、驚いたり感心したりしていました。観察した方は16日は160人位、17日は200人を超え、2日間で360人以上になりました。

この方々が、いくらかでも手賀沼と鳥を好きになってくれたらと思います。中にはベテランの方もおられ、鳥談義に楽しい時を過ごしました。

パードフェスティバルが我孫子市のメインイベントとして、定着し手賀沼の鳥が広く皆さんに知ってもらえたら、定点観察も、より楽しくなるのではないのでしょうか。

11月16日(土)

<参加者>田丸(Y+ML)西巻、飯泉(仁+久)染谷、

宮下、坂巻、諏訪、志賀、畑、

<認められた鳥> 26種

11月17日(日)

<参加者>田丸、西巻、飯泉(仁+久)染谷、宮下、諏訪、

<認められた鳥>34種

<認められた鳥>(噴水前、定点観察)

(○は11/16のみ、*は11/17のみ、無印は両日とも)

(出現順)

オナガガモ、ユリカモメ、オオバン、スズメ、ハクセキレイ、カワウ、モズ、ヒヨドリ、コサギ、セグロカモメ、アオジ、ハシブトガラス、○オオタカ、アオサギ、ホシハジロ、ツグミ、カイツブリ、マガモ、カルガモ、ジョウビタキ、ダイサギ、○キジバト、カワセミ、セグロセキレイ、ハシボソガラス、○カワラヒワ、*ムクドリ、*カワアイサ、*コガモ、*ハジロカイツブリ、*ハシビロガモ、*ヒドリガモ、*コブハクチョウ、*バン、*ミコアイサ、*ノスリ、*シジュウカラ、<以上37種>

○ 船上パードウォッチング

担当者 向井章雄、猪爪敏夫、

11月16日(土)

AM10:00 乗船者29名 担当 猪爪

<認められた鳥>21種

PM1:30 乗船者31名 担当 向井

<認められた鳥>23種

11月17日(日)

AM10:00 乗船者26名 担当 向井

<認められた鳥>20種

PM1:30 乗船者36名 担当 猪爪

<認められた鳥>24種

○ 第2回JBF(手賀沼の水鳥コーナー展示)

11月16日(土)~17日(日) 間野吉幸

肌寒い曇天の中、第2回ジャパン・パード・フェスティバルが11月16日、17日の両日開催された。

我が会は親水広場の中心にブースが確保出来、「庭に鳥を呼ぶコーナー」と「手賀沼の水鳥コーナー」を設け全国からのお客さんに対応した。

「手賀沼の水鳥コーナー」は、我が会の25年余に渡る手賀沼の代表的な水鳥観察個体数の記録をグラフに描いて展示した。展示内容は、手賀沼で多く観察される種類を中心に、観察個体数とその傾向線を、総数、カイツブリ科、ウ科、サギ科、ガンカモ科、クイナ科、カモメ科別に、また科別構成比の推移をパネルで表した。

コーナーを訪れた人は、全体としては少数であ

ったが、我孫子市長や鳥に大変関心の深い人が熱心に、パネルを食い入るように見ている。

手賀沼の観察個体数の傾向が全体としては漸減にあり特定の固体が増加しているグラフは、手賀沼を毎日見ている人の感覚との一致するものであった。

特に展示コーナーを担当して感じたことは、四半世紀に渡る観察記録が、他の追隨を許さぬもので、大変立派な業績で来場者の垂涎の的であった。またこの記録を何時公表するののかとの質問もあった。先輩達のたゆまぬ努力が、25年に渡るデータが、如何に説得力あるものであるか、今回のお客さんの反応からひしひしと伝わった。

当コーナーを担当した一員として誇りに感じた二日間であり、手賀沼の水鳥の状況を理解して頂いたことも初期の目的を達成出来ほっとしている。

○「庭に鳥を呼ぶ」コーナーでの2日間

北原建郎

「餌台を下さい」時計を見るとまだ9時過ぎ、その人は会場に来るなり真先に、ここに来た様子で、去年買おうと来たが売切れで、1年待ったとのこと。その一途な思いに驚いた。このあと用意した餌台はあっというまに売切れ、庭に鳥を呼ぼうとの関心の高さが伺えた。

このブースは、野鳥が好んで食べる木の実で前面を飾り、バードケーキ、フィーダーの作り方、餌台、巣箱、バッジの販売と盛り沢山の内容。これ以外にも客をこのブースに引き込む為、野鳥クイズを実施。「クイズをやりませんか」と皆で呼びかけ、子供から大人まで200人以上のひとが挑戦し、ブース前は大変盛況であった。

今回の企画は、来場者が身近に野鳥を意識できるように工夫されていて、このブースに来た人は、どうしたら自分の庭に野鳥がくるのか、大変参考になったものと思われる。

私は合い間合い間にここを抜け出し(サボって)、他のブースの見学やデジスコの説明を聞いたり、湖上 BW で船に乗ったり、又、大鷹、カワアイサが出たと聞いては、噴水まで行ってスコープを覗いたりし、大忙しの2日間であった。以上

○展示した木の実等 (順不同)

ピラカンサ、ヒサカキ、カキ、ヒナンカズラ、カラスウリ、ヘクソカズラ、スズメウリ、スイカズラ、ツルウメモドキ、ツタ、ネズミモチ、トウネズミモチ、モチノキ、クロガネモチ、センダン、

ゴヨウマツ、ムクノキ、イヌシデ、イヌツゲ、アオキ、コムラサキシキブ、ノイバラ、シロダモ、モッコク、ナンテン、センリョウ、マンリョウ、カラタチバナ、ハンノキ、ゴンズイ、ペニシタン、ミカン、ニシキギ、サンシュユ、ガマズミ、シャリンバイ、ハギ、チャ、ヤブデマリ、ヨウシュヤマゴボウ、ハナミズキ、アオツツラ、ハリギリ、ガガイモ <以上44種>

お手伝いいただいた会員 (五十音順)

11/15 (金) 設営、11/16~17 (日)

赤尾 完、飯泉 仁・久美子、伊藤貴子、猪爪敏夫、梅村康之、榎本 右、川上 貢、川田光男、木村 稔、北原建郎、久保征一、黒田 力、小玉文夫、小林寿美子西城 猛、佐々木隆、坂巻宗男、志賀鉄雄、柴本三弘・法子、島崎純造、諏訪哲夫、染谷迪夫、田丸喜昭・メリールイス、田中 功、中野久夫、西巻 実、野口幸子、広瀬美恵子、正木多美代、間野吉幸、宮下三禮、向井章雄、山本貞江 <以上36名>

野鳥クイズ実施状況

得点	11/16	11/17	合計 (%)
100	3	9	12 (6.1)
90	27	18	45 (22.8)
80	11	18	29 (14.2)
70	25	27	52 (26.5)
60	20	12	32 (16.2)
50 以下	14	13	27 (13.7)
計	100	97	197 (100.0)

○琵琶湖研修探鳥会に参加し

H14年11月22(土)~23(日) 柴本三弘
集合時刻の AM6:00 の15分前に我孫子駅に着くと驚いたことに、ほとんどのメンバーが既にバスに乗り込んでおり皆気合が入っていました。向井幹事の指定する席へ着く。そこはコの字形の6~7人の席で真中に大きいテーブルがあり、その上に4~5本の酒、ウイスキー等がドンと置かれていた。その城に直ぐにも攻め入る様子の大久保、田中、間野、染谷、北原氏の諸武将が布陣しており、退路を阻むように強豪松田、一番ヶ瀬氏布陣し城外には援軍の武将猪爪、向井、佐々木氏が備え、さらに“くノ一”の小林姫が見張るといふ風雲急をつける最前線の特別席でした。

*鮎鮎の話

バスは順調に走り東名高速に入り AM7:30 には CLUB ウメムラのマスターの号令で店開き、早朝会議が始まり野鳥中心の議題から、歴史・文化・

お国自慢と会議は踊り、さらに目的地の琵琶湖周辺の話題になり、滋賀県人の田中氏の出番となり、滋賀全般の話を押聴した。その中でかの戦国武将織田信長が好んだと言われている鮎鮠の話となり、その製法、歴史、食べ方等のうんちくを CLUB ウメムラの常連客と共に静聴する。「鮎鮠を喰わずして琵琶湖を語るべからず」とまで言われ、急遽（鮎鮠を食べる会）が田中会長のもとに発足し常連客が株主となり夕鮠に食べることに話がまとまる。

バスは快調に走り雨模様だった静岡、名古屋を過ぎ昼食休憩の滋賀の養老 SA に着いた頃には快晴となり目的地の琵琶湖まで約 30 分とのこと。

*探鳥と研修会議

PM2:00 頃琵琶湖北岸の野鳥センターに着く。ビギナーの私には野鳥の種類も数も多く field book と格闘しながら観察するが何種も識別出来ないうちに、次のポイントへ移動する時間となってしまう。次のポイントに行く途中バスを止めた中会長と本物のニゴロ鮎の鮎鮠を購入した。

バスで 10 分程で次のポイントに着く。大小の鳥の中にいたいたオオヒシクイが 5~6 羽。待望の出会いに感激でした。PM4:00 頃本日の宿泊地の竹生荘に着く、湖岸に面し紅葉したモミジと松に囲まれた清楚な小奇麗な宿でした。

PM6:00 木村会長のご発声にて幹事研修会及び会議が開催され、和気あいあいの中にも熱心に討議が交わされ飲食付の研修会議は永く続き、例の鮎鮠も田中会長の解説付で全員で食べました。その味は驚きの珍味でした。会議は場所を変えて続け何時に終了したのか覚えておりませんでした。

23 日(日)晴 AM6:30 全員で附近のピオトップと湖岸を 1 時間程探鳥し水鳥の他ジョウビタキ、オナガ、ホオジロ、シジュウカラなど多くの鳥を観察した。

*エジプトガン

AM8:50 昨日オオヒシクイを見た湖岸のポイントを覗いたところ、「いたいた」100~200 羽くらいのオオヒシクイの大群です。驚きと感激をおぼえました。田中先輩がマガンを発見、早速スコープを覗かせてもらうと 4 羽いた。そのうちオオヒシクイの群が一斉に飛び立った。後で聞いた話ではオオワシの飛来によるとのことでした。

ほどなく一羽だけ 60m 程離れた沖の小島に変わった鳥が飛来した。早速田中先輩に見て頂く。目はパン状態で尾羽は黒ぼく、全体はマガンくらいの大きさで色は薄茶、さすがの先輩も特定出来ず近くにいた地元の人にも見てもらうが分からない。メンバーの小林さんも首をかしげ、向こうにいたメンバー達も気が付いた様子で騒ぎ出す。もし新しい種類ならどうしよう。名前等諸々考えねばと、田中さんと共に一瞬緊張した。我孫子に帰り鳥研に問合せ向うことにする。

昨日最初に見た野鳥センターに AM9:30 到着すると、先程見て大騒ぎした鳥の資料が写真パネルで展示してありエジプトガンと判明した。同セ

ンターでも 11 月 17 日に観察したとのことで何か気が抜けた。昨日とは天候違い曇っており少しスコープで覗くと薄暗く判別が難しい種類もあった。センター職員が珍しい鳥を見つける度に知らせてくれビギナーの私にも観察し易く最高の環境でした。多種多数の水鳥の中でも、先日の JBF で十数年ぶりに手賀沼で観察され騒がれたカワアイサ、ウミアイサも見られ水鳥の豊富さに驚きと感激でした。帰りにセンターく近くの渡岸寺観音堂に寄り、国宝十一面観音を拝観した。AM11:30 頃向井幹事が佐々木財務担当幹事より多額の予算を引き出し、大量の飲物・食料を仕入れる。それに「鮎鮠の会」より株配当で琵琶湖湖北町地元の銘酒一本、諏訪さんからブランデー XO が差し入れられ、染谷さんのへそくり一本も取り上げ CLUB ウメムラの開店準備が完了する。帰路の車中で猪爪幹事の進行でビタリ賞付鳥合わせを行う。結果は 53 種で該当者なしで研修探鳥会は全て終了した。

<参加者>大久保陸夫、木村 稔、染谷迪夫、中野久夫、西巻 実、間野吉幸、宮下三禮、猪爪敏夫、向井章雄、佐々木 隆、一番ヶ瀬国彦、北原建郎、諏訪哲夫、田中 功、松田幸保、柴本三弘、小林秀美、野口幸子、山本貞江、小島昭江、梅村康之

以上 21 名

<認めた鳥>カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、マガン、オオヒシクイ、エジプトガン、コハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、アカハシハジロ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサ、ウミアイサ、トビ、オオワシ、チュウヒ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、オオバン、タグリ、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、

以上 53 種

○美しい手賀沼を愛する市民の連合会研修視察会に参加して

木村 稔

美手連佐鳴湖研修視察会(11月30日~12月1日)には八つの市民団体から 10 人が参加した。佐鳴湖は静岡県浜松市の西に位置する天然湖で平均水深 1.4m、流域面積 16.8k m²、流域人口 6.1 万人、手賀沼同様、主に生活排水による水質悪化(COD 12)で手賀沼に次ぐワースト 2 であったが北千葉導水路の助けを借りて手賀沼の COD 値が下がったため因らずも今年になってワースト 1 の汚名を渡されることになった。佐鳴湖の水質改善の取り組みは県、市、市民団体が協力して佐鳴湖水環境改善地域協議会を組織して色々な施策がなされてきた。湖底に堆積する汚泥の浚渫、放水路の新

設、水質浄化施設の設置、上流域の下水道整備事業、市民団体「佐鳴湖をきれいにする会」のクリーン作戦、などである。現在湖畔を囲む斜面林は全て市で買収して水辺の公園に取り込んだり、すでに使われている3面張り水路の底の面を壊して多自然型に改善するなど積極姿勢がうかがえる。

「佐鳴湖をきれいにする会」は流域自治会、小・中学校長、ライオンズクラブ、ロータリークラブなどで組織されていて泳げる佐鳴湖と食べられるしじみの復活をスローガンにしている。佐鳴湖の特殊性としては河川を通して流出する4km先の浜名湖と水位の差が少なく滞水時間が長いこと、汽水湖のため満潮時には溯上してくる海水と一緒に流出した水が逆流することがある。しかし流入する河川の水質は良いので下流域の下水道が整備されると案外早く水質が改善されるかもしれない。とはいえ、視察団の対応をしてくださった静岡県浜松土木事務所の職員や地元の「佐鳴湖をきれいにする会」の方にとって水質が全国ワースト1と言われるのはかなりプレッシャーになるだろう。視察の様子を静岡新聞と中日新聞が取材していたが12月1日の中日新聞には佐鳴湖「水質ワースト1」決定的という見出しで県の対応を問う記事が大きく掲載された。われわれ視察団も写真入りで紹介された。湖上の鳥はホシハジロの500羽ほどの群れや葦を植えたいかだの周辺にマガモ、ヒドリガモ、コガモ、オナガガモ、オカヨシガモ、オオバン、中ほどにカンムリカイツブリなどがみられた。ミサゴ、ハヤブサもあらわれた。水の透明度(40センチ)や岸辺の砂地の様子はCOD以外の物差しでみると手賀沼よりよほどきれいなのではないかと思えた。いずれにしても、今後も手賀沼の浄化に努めていかなければワースト1の看板はすぐに戻ってしまうだろう。

○手賀沼ふれあい清掃 梅村康之

市民団体による恒例の手賀沼周辺のゴミ集めが、今年は集合場所を手賀沼公園から水の館前に変更して行われた。今回は「我孫子野鳥を守る会」が実行委員長となっており、島崎純造事務局長の大会宣言を合図にゴミ集めを開始した。我々はふれあい道路を水の館から東へ向かい進む。ゴミは人材ボランティアの方々が、毎週道路を清掃している関係が従前に比較して非常に少ない。大変良いことだ。天王台駅への登り口を過ぎ、滝前まで来て終点となり、清掃車に集めたゴミを積み込み、帰りは手賀沼遊歩道を水の館まで戻り作業は終了した。皆様本当にご苦労さまでした。<参加者>猪爪敏夫、飯島 博、遠藤織太郎、岡本信夫、佐々木 隆、坂巻宗男、島崎純造、柴本三弘・法子、首藤佑吉、飯訪哲夫、染谷迪夫、田丸喜昭、中野久夫、西巻 実、野口幸子、間野吉幸、野口紀子・紀恵、宮下三禮、向井章雄、山本

貞江、荷見睦子、梅村康之 以上24名

*感謝 会計幹事 田丸喜昭

会員の国安テル子さんより多額のご寄付を頂戴しました。厚く御礼申し上げます。

“鳥だより”

- 07.08 [柴崎台] ヒ*(1)飛翔 米田洋斗
- 09.02 [北新田] マジ*(1)稲刈田から飛立ち 中野久夫
- 09.03 [北新田] マジ*(4)越流堤下池で採餌 中野久夫
- 09.04 [北新田 3号排水路] マジ*(♂♀2)採餌 中野久夫
- 09.04 [北新田] イジ*(2)越流堤下池で採餌 中野久夫
- 09.04 [北新田 3号排水路] イジ*(3)採餌 中野久夫
- 09.05 [北新田] コドリ(7)調整水田で採餌 中野久夫
- 09.05 [北新田] ク(3)畦上 中野久夫
- 09.07 [北新田] コ*(3)越流堤下池・カ*(3)の群中 中野久夫
- 09.16 [北新田] ヨウゲン*(1)南へ飛去 中野久夫
- 09.22 [北新田] ヒ*(4)越流堤横草地 中野久夫
- 09.25 [弁天下] ヨウゲン*(1)カ*(1) 中野久夫
- 09.29 [北新田] ヒ*(2)越流堤横草地 中野久夫
- 10.02 [東中新宿3] エ*(1)高鳴き 飯泉久美子
- 10.02 [布施 あけぼの山公園] ヲドリ(4)樹上の 中野久夫
- 10.04 [北新田] ヒ*(1)ホソアオゲイトウの先端に止まっていた 西巻 実
- 10.04 [北新田] マ*(1)南へ飛去 中野久夫
- 10.04 [北新田] ク(2)稲刈田から飛立ち 中野久夫
- 10.05 [上沼] マ*(1) 飯泉 仁・久美子
- 10.05 [下沼] マ*(1) 飯泉 仁・久美子
- 10.05 [上沼] マ*(2) 飯泉 仁・久美子
- 10.05 [上沼] マ*(2) 飯泉 仁・久美子
- 10.05 [下沼] マ*(4) 飯泉 仁・久美子
- 10.05 [白山 上空] ヨウゲン*(1)カ*(1)の群を追いかけていた 飯泉 仁・久美子
- 10.05 [下沼] コ*(3) 飯泉 仁・久美子
- 10.05 [高野山新田地先 下沼] マ*(6)カ*(1)の群に混じって泳ぐ 米田崇明・洋斗
- 10.06 [北新田] ヨウゲン*(2)飛翔 中野久夫
- 10.05 [北新田] マ*(4)越流堤下池で休息 中野久夫
- 10.10 [東中新宿3] マ*(1)7:00 ころ鳴きながら上空を通過 飯泉久美子
- 10.10 [北新田] マ*(1)カ*(1)の群を追う 中野久夫
- 10.10 [北新田] マ*(3)稲刈田で休息 中野久夫
- 10.13 [北新田] マ*(1)稲刈田で休息 中野久夫

- 10.14 [南青山] コウソウ(1)鳴く 米田崇明・洋斗
 10.15 [北新田] ハイロチュウ(1)砂原に降りる 中野久夫
 10.15 [北新田] ハアサ(2)電柱上 中野久夫
 10.16 [北新田] キョウバツ(3)越流堤下池 中野久夫
 10.17 [北新田] チュウ(1)利根川河川敷上物色飛翔 中野久夫
 10.19 [北新田] オジシ(2)上 中野久夫
 10.22 [北新田] オシシ(1)上 中野久夫
 10.23 [花野井] ショウ(2)朝 6:50 庭に飛んできて5分ほどいて飛び去った 宮下三禮
 10.27 [北新田] ト(1)飛翔 中野久夫
 10.27 [北新田] 材カ(2)柳樹上で休息 中野久夫
 10.30 [北新田] ハビ(3)越流堤下池 中野久夫
 11.03 [下沼] ハカ(7) 飯泉 仁・久美子
 11.03 [下沼] カ(4) 飯泉 仁・久美子
 11.03 [下沼] チョウ(1) 飯泉 仁・久美子
 11.03 [上沼] セ(1) 飯泉 仁・久美子
 11.03 [手賀沼] ウ(1) 飯泉 仁・久美子
 11.04 [古利根] ト(2)休息 米田崇明・洋斗
 11.04 [古利根] ハ(8)休息 米田崇明・洋斗
 11.04 [中峠 古利根周辺] イ(2)水路を歩いていた 米田崇明・洋斗
 11.05 [柏の葉4 柏の葉公園調整池] ハ(1)幼鳥 潜水を繰り返していた 我孫子市鳥の博物館 時田賢一
 11.06 [北新田] カ(1700)300,500,200,300,300,10,50,20羽の群が北北東に向かい利根川を下流に向かって飛んだ 西巻 実
 11.07 [東中新宿3] ヲ(1) 8:30に1羽 8:45に8羽が上空を声をあげて通過 飯泉 仁・久美子
 11.07 [湖北台4 斜面林] ヲ(2)鳴きながら林の中を移動 赤尾 完
 11.09 [高野山新田地先 下沼] チョウ(1)沼上を飛翔中カスに追われて南に飛び去った 首藤佑吉
 11.17 [根戸新田] ヲ(1300)16:00ころ電線にびっしり並んで止まっていた 西巻 実

- 11.22 [北新田] コミ(2)農道脇水田の稲の二番穂の陰に舞い降り、200m離れた小さい草叢から飛び立ってカスに付き纏われていた 西巻 実
 11.23 [手賀沼] ミ(29) 飯泉 仁・久美子
 11.23 [片山新田地先 下沼] カ(1) 飯泉 仁・久美子
 11.24 [都部新田 湖北集水路] ウ(1)当会 初認 オ(1)に混じって泳ぐ 飯島 博
 11.28 [北新田] ハイロチュウ(1)日の出前、水田上を低く飛翔中チョウ(1)♀に襲われハアサにも絡まれ最後にハ(1)カスに付きまとわれた 西巻 実
 11.28 [北新田] ハアサ(1)飛翔中のハイロチュウに絡みあった 西巻 実
 11.28 [北新田] チョウ(1)飛翔中のハイロチュウを攻撃した 西巻 実

今回の観察者の投稿件数

飯泉久美子	19	赤尾 完	11
飯泉 仁	20	荒木金四郎	1
飯泉仁・久美子	128	一番ヶ瀬国彦	1
首藤佑吉	5	井上 正	10
首藤美恵子	1	井上正・田中功	1
西巻 実	12	飯島 博	4
中野 久夫	59	木村 稔	2
米田 洋斗	2	島崎 純造	1
米田 崇明	3	向井 章雄	4
米田崇明・洋斗	14	平岡 考	4
宮下 三禮	4	時田 賢一	1
			計 307件

◎我孫子市鳥の博物館からのお知らせ。
 休館日

1月 1.2.3.4.6.14.15.20.27

2月 8.10.12.17.24

上記の日は休館日です。



我孫子野鳥を守る会会報

発行人	木村 稔	〒270-1152	我孫子市寿 1-21-35	TEL 04-7182-7958
編集人	梅村康之	〒270-1154	我孫子市白山 1-23-15	TEL 04-7149-0625
事務局	島崎純造	〒270-1121	我孫子市中峠 3759-5	TEL 04-7187-2222
振替	00140-2-51628	我孫子野鳥を守る会		
会費	年額 2,000円 (大学生・高校生 1,000円、中学生以下 500円、家族は無料)			